

令和 6 年度

学校自己評価表 (計画)

学校運営計画		
学校運営方針	1 新墾精神を受け継ぎ、知育・徳育・体育の活動を通して個性を伸ばし、進んで社会に貢献することのできる人を育てる。 2 ICT教育を推進することでわかりやすい授業を実現し学習の効率化を図る。また、端末を活用した個別学習の支援や情報活用能力の向上を目指す。 3 「県立学校における教員の勤務時間の上限に関する方針」に基づき勤務時間に対する意識改革等の取組を推進する。	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	① 1つの物事を多様な視点から捉える姿勢を育成します。 ② 複数の事柄を関連付けて考えることができる能力を育成します。 ③ 課題を発見し、他者と協働して課題を解決しようとする態度を育成します。 ④ 自他をとともに尊重する姿勢と、よりよくコミュニケーションをとる能力を育成します。 ⑤ 自己の将来の生き方を主体的に考え、行動する意欲を育成します。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	① 第2学年以降のコース制により、生徒一人ひとりの個性と能力を伸ばします。 ② 全ての教科および総合的な探究の時間で地域と連携した取組を行います。 ③ きめ細やかな学習支援と学び直しにより、課題解決に必要な資質・能力を養います。 ④ キャリア教育により人間関係をつくる力、情報を活用する力、将来を見通し、責任をもって意思を決定する力をバランス良く育成します。	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	① できなかったことをできるようになりたい生徒 ② 学校内外の人との関わりの中で視野を広げたい生徒 ③ 自己も他者も大切にして、ともに高め合いたい生徒	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
[成果] ・校務能率の向上 ・希望者全員の就職内定 ・PTA等と連携した、活気ある豊高フェスティバルの実施 ・多くのいじめを認知し、丁寧に対応したこと ・地域連携の深化 [課題] ・地域と連携した探究学習 ・プロアクティブな生徒指導によるいじめや問題行動の未然防止 ・学習の個別最適化による個に応じた学習の推進 ・効果的な情報発信	総合的な探究の時間を中心に地域と連携した取組を充実させる。	・あらゆる教育場面で地域連携の可能性を模索する。 ・地域連携により生徒が成長を実感する。また、生徒の地域に関する関心が高まる。
	プロアクティブな生徒指導により、いじめや問題行動を未然に防止する。	・いじめを予防する取り組みやいじめを見逃さない組織体制を構築する。 ・いじめの積極的認知に努め、発生件数を昨年度よりも減少させる。 ・問題行動の発生件数を昨年度よりも減少させる。
	ICTを活用して、学習の個別最適化を図る。	・学校向け総合ICTサービスの学習支援機能を活用する。 ・校務や授業に教育用クラウドサービスを活用する。 ・CBTによる到達度テストにより、学習のPDCAサイクルを確立する。
	地域の中学生やその保護者に効果的に情報を発信する。	・地域連携の成果等がマスコミに報道されるようにする。 ・noteを活用して積極的に情報発信する。 ・豊高フェスティバルを地域への情報発信の機会として活用する。

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
総合的な探究の時間を中心に地域と連携した取組を充実させる。	・あらゆる教育場面で地域連携の可能性を模索する。	総合的な探究の時間、教科の授業、部活動、生徒会活動の何れかにおいて、新たな地域連携を2件以上行う	
	地域連携により生徒が成長を実感する。また、生徒の地域に関する関心が高まる。	意識調査において、質問「学校の授業で、地域の人と対話したり、一緒に活動したりしたことが、自分の成長につながったと思いますか。」に対して肯定的回答を50%以上にする。【R5 46.4%】	
		意識調査において、質問「地域の魅力を理解したり、地域課題を地球規模の課題と関連付けて学習することで、地域に対する興味・関心は高まりましたか。」に対して肯定的回答を40%割以上にする。【R5 35.7%】	
プロアクティブな生徒指導により、いじめや問題行動を未然に防止する。	いじめを予防する取り組みやいじめの発見を適切にできる組織体制を構築する。	学校生活アンケートにおいて、質問「あなたの学校の先生方によるいじめに対する取組はどうか。」に対して肯定的回答を75%割以上にする。【R5 77.6%】	
		第2回いじめ対策総点検において、校内研修への職員の参加率を75%以上にする。【R5 76.0%】	
		第2回いじめに関する自己点検において、職員の正答率を90%以上にする。【R5 94.6%】	
	いじめの積極的な認知に努め、発生件数を昨年度よりも減少させる。	いじめの疑いを含むいじめ認知件数を70件以下にする。【R5 75件】	
問題行動の発生件数を昨年度よりも減少させる。	生徒支援部説諭以上の特別指導の件数を25件以下にする。【R5 29件】		
ICTを活用して、学習の個別最適化を図る。	学校向け総合ICTサービスの学習支援機能を活用する。	1・2学年において、国語、地歴、公民、数学、理科、外国語、情報の開講科目の過半数で学校向け総合ICTサービスの学習支援機能を利用する。	
	校務や授業に教育用クラウドサービスを活用する。	1月のICT活用状況調査において、教育用クラウドサービスを活用することができる教員を85%以上とする。【R5 88.2%】	
	CBTによる到達度テストにより、学習のPDCAサイクルを確立する。	課題テストの過半数の科目でCBTによる到達度テストを実施し、連動課題を配信する。	
地域の中学生やその保護者に効果的に情報を発信する。	地域連携の成果がマスコミに報道されるようにする。	地域連携の成果等のマスコミ報道を年間3件以上にする。【R5 葛塚市（新潟日報）、巨大文字作成（新潟日報）、イルミネーション点灯式（BSNラジオ）】	
	noteを活用して積極的に情報発信する。	noteに年間25回以上投稿する。	

	<ul style="list-style-type: none"> 豊高フェスティバルを地域への情報発信の機会として活用する。 	豊高フェスティバルへの来場者を100人以上にする。		
成果			総合評価	